

哥枕名寄

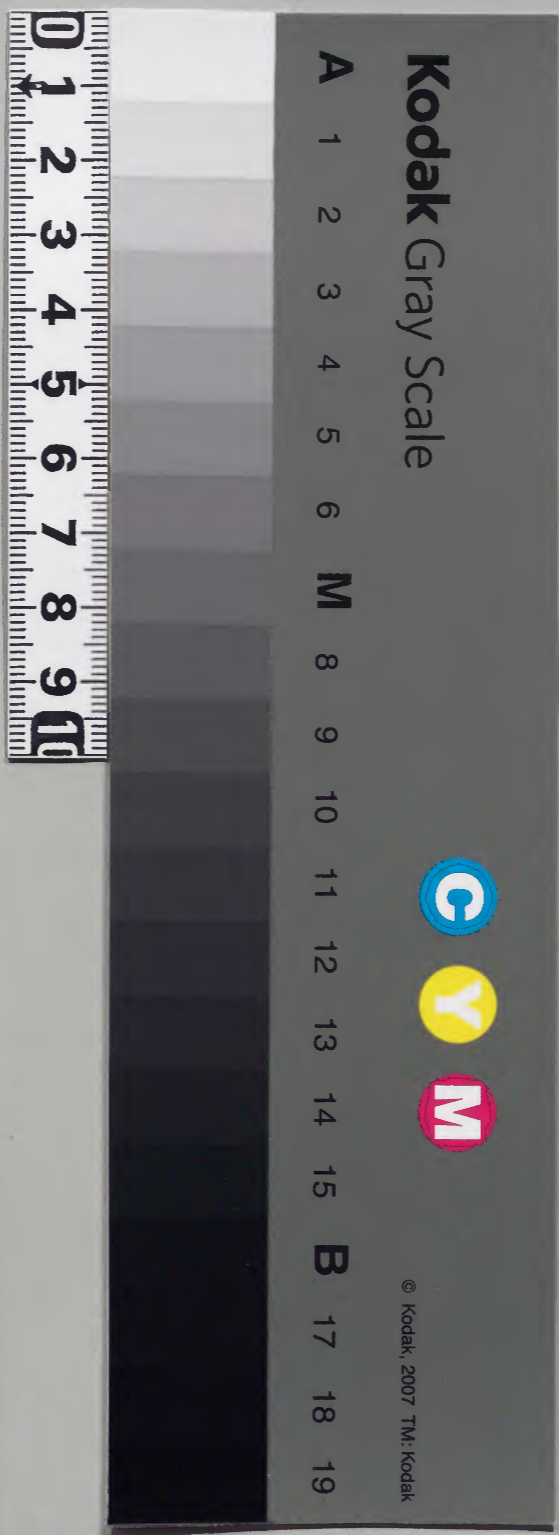
廿二

設

| | | | |
|-----|----|----|----|
| 庫 | 文 | 閣 | 内 |
| 三三函 | 三三 | 三三 | 和書 |
| 架 | 冊 | 號 | 類 |

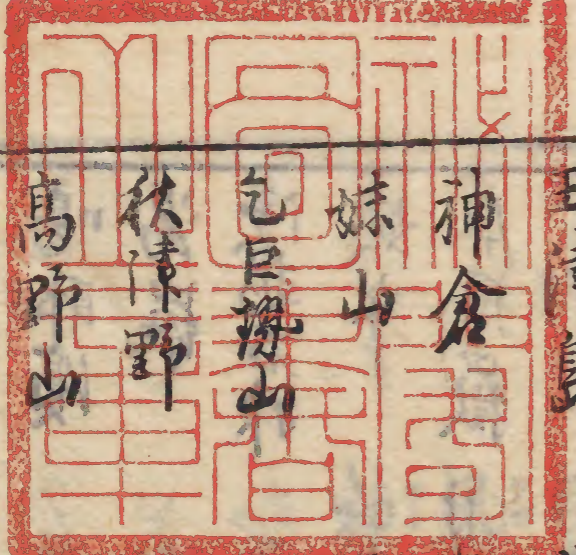
| | | |
|------|----|-----------|
| 内閣文庫 | 番號 | 和 34674 |
| | 冊數 | 39 (34) |
| | 函號 | 202 121 |

共廿九



函
292

編備



講枕名寄表第三十二
用典
南海部

玉津島

神倉

妹山

乞巨海山

秋津野

高野山

大我野

黑牛海

飽等濱

紀伊國

若浦

吹上

然野

那智

雄山

青土

岩田河

養心門

背山

妹与背山

巨海山

名草濱

去来見山

人回山

殺目山

系麻山

信土山

今城峯

石代

左日鹿

安布野

紀用

本河

阿胡根浦

鳴呼見浦

飽浦

榻田

知多浦

形見浦

| | | | | |
|------|------|------|------|-----|
| 玉浦 | 離小浦 | 三名部浦 | 名高浦 | 磯浦 |
| 水傳磯浦 | 白神磯浦 | 神磯磯浦 | 結浦 | 小江浦 |
| 塙浦 | 塙磯浦 | 凡莫濱 | 手繩濱 | 倉喜濱 |
| 鳴耶濱 | 千奴濱 | 辛等見濱 | 浦初濱 | 白崎 |
| 湯羅 | 室江 | 哭沢杜 | 三穗石室 | |
| 津越石神 | 八上王子 | 曝井 | 古畑 | 深山 |
| 姨峯 | 東屋峯 | 千草嶽 | 蟻戸渡 | |
| 屏風嶽 | 付行者還 | 見苗 | | |

玉津嶋篇

安見^{ヤスミ}知之^シ和朝^{ワカ}大王^{オホキミ}之^ノ常^{トコ}宮^{ミヤ}爲^ト仕奉^{シタマフ}流^ル左^サ

日鹿^{ヒカ}野^ノ由^ヨ有^リ上^ノ所^ニ見^ル奥^{オキ}島^{シマ}清^{キヨ}波^{ナミ}激^シ尔^ニ

風^{カゼ}吹^フ者^ハ白^{シラ}浪^{ナミ}左^サ和^ワ伎^キ濱^{ヒナ}干^ハ者^ハ玉^{タマ}津^ツ島^{シマ}夜^ヨ麻^マ

神^{カミ}代^{ヨリ}從^ヒ然^ニ尊^{ミコト}尊^{ミコト}若^ニ玉^{タマ}津^ツ島^{シマ}夜^ヨ麻^マ

右神系元年甲子冬十月廿日幸于紀

伊弉時山神宿祢赤人他致反乎和

類浦載

玉津嶋

たぐひぬる人のまらとつり

玉津嶋

百
いづれもあはれなるあはれなる
つらきもよもやうなるあはれなる

月九
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

右七
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

金八
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

千五
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

七ノ二

録五
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

月七
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

日七
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

久永三年三月
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

海路名取
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

連保百
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

萬葉

玉はしほのりかしのまよしく

良玉

ふりかまはし玉はしほの山根原

山根原

あつそふふ子代のおそりかき

入江

板十一

玉津崎のうらみ入江をさく船を

うらみさきを我いさむる

六指

玉はしほ入江の小雲人たうけ

うけ代りへいそとて御物

淡路一

人そとて入江をさく船を

うけ代りへいそとて御物

為氏

若浦

万六

鶴

若浦雨塩満来者海宇多美

若浦雨塩満来者海宇多美

山部省祿
赤人

月七

わりの浦よきつはらておまはせ

若乃浦よ神をいかにしてはすれ

月十一

長真

若乃浦よ神をいかにしてはすれ

若乃浦よ神をいかにしてはすれ

月十九

若乃浦よ神をいかにしてはすれ

連被法師

月九

若乃浦よ神をいかにしてはすれ

甲斐

詞九

みまゝにわづらひのさしをせしめ
わづらひの浦よりいづれにけり

日五

日づれにわづらひのさしをせしめ
波のよりいとせぬおたけり

贈左大臣

千五

右二首贈答子御書見于本集
初より波とそとよわづらひ
せしむるわづらひのさしをせしめ

祇成仲

堀百

わづらひの浦乃いづれにけり
いづれにわづらひのさしをせしめ

公実

千音

初よりわづらひのさしをせしめ
さあつらばつら月を

隆信

詞九

日

しきわづらひの浦乃いづれにけり
いづれにわづらひのさしをせしめ

信成

日

わづらひの浦乃いづれにけり
いづれにわづらひのさしをせしめ

新向

日

わづらひの浦乃いづれにけり
いづれにわづらひのさしをせしめ

家吉

日

わづらひの浦乃いづれにけり
いづれにわづらひのさしをせしめ

日

詞七

わづらひの浦乃いづれにけり
いづれにわづらひのさしをせしめ

日

日十六

わづらひの浦乃いづれにけり
いづれにわづらひのさしをせしめ

初月十五

波づく多き月よ乃々しかり 且つ 龍光

若の浦より月の影がたゞとまひて

よらなくさるるりくううりきき 甚だ

同十七

わのうらをねのまふらうらうらひ

まきとくよらうらわのつゆみ 寂連

同十八

若の浦やゆらつたあひのうらひ

あまのうらまはれよらうらうら 家隆

同十九

若のうらやまのうらうらをゆき

ゆきゆきとあわやのうらん 順徳院

同二十

若はいのうたうらうけよみか

たれうらうらわのうらうらみ 悟心 行意

初月廿五

わの海やうらうのたぐみ

あまの月の影うらうら 板橋河原

同廿七

若の浦よまはれぬあまのうら

まはれぬあまのうらうらうら 法眼宗系

同廿九

わのうらうらうらうら

わのうらうらうらうら 行念法師

同三十

わのうらうらうらうら

わのうらうらうらうら 俊成

同三十一

わのうらうらうらうら

わのうらうらうらうら 西好

同三十二

わのうらうらうらうら

續拾七

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

しりりのおもひをさるもわづらひ

若乃浦は日首のともなくいひて

あまのこころをいかにかきかへん

若のうらわをさくははりのかき

わく敷なうてさるわづらひ

きりねえり知ありあてはらふ

行末のしらおはりのあつ風

つねをさるわづらひのあつ風

いりあつらふおのよき人

いそりおはれ浦をさるわづらひ

いそりおはれ浦をさるわづらひ

常盤
入

名

右京

中原

平春時

右京

持政

十日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

かひりよわわらふらふはれ

さるわづらひに玉津いひて

かひりよわわらふらふはれ

いりあつらふおのよき人

若の浦をさるわづらひ

かひりよわわらふらふはれ

神のおもひをさるわづらひ

つねをさるわづらひのあつ風

わづらひのあつ風をさるわづらひ

かひりよわわらふらふはれ

いりあつらふおのよき人

陰信

平時

光俊

右京

太上天皇

新正十

新正十

日六

日誰

日

日

日

日

日

日

日

あつちのまのひすのふれ月雪位

あつちのまのひすのふれ月雪位

あつちのまのひすのふれ月雪位

あつちのまのひすのふれ月雪位

あつちのまのひすのふれ月雪位

あつちのまのひすのふれ月雪位

あつちのまのひすのふれ月雪位

あつちのまのひすのふれ月雪位

あつちのまのひすのふれ月雪位

あつちのまのひすのふれ月雪位

あつちのまのひすのふれ月雪位

新正六

新正六

日十

日

日

日

日

日

日

日

日

日六

あつちのまのひすのふれ月雪位

あつちのまのひすのふれ月雪位

あつちのまのひすのふれ月雪位

あつちのまのひすのふれ月雪位

あつちのまのひすのふれ月雪位

あつちのまのひすのふれ月雪位

あつちのまのひすのふれ月雪位

あつちのまのひすのふれ月雪位

あつちのまのひすのふれ月雪位

あつちのまのひすのふれ月雪位

あつちのまのひすのふれ月雪位

あつちのまのひすのふれ月雪位

日六
初日六

さつりもくくねしりのうら母
あつりのはとりりちあめくとも

侍音田的

日

よるのこきぬぬしりれうへ

入乃あき政
大長

日

美の浦ういりう老わらあめあつり

日

子乃りめあつりあつりあつり

あ氏

日

若乃りふまばあつりあつりあつり

日

しあつりあつりあつりあつりあつり

は定西親

日

若の浦うみけりあつりあつりあつり

日

いあつりあつりあつりあつりあつり

あ氏

日

あつりあつりあつりあつりあつり

日

あつりあつりあつりあつりあつり

丹波忠守
朝臣

文永三年三月
續古今竟實考

巻の七
三十一の附

りあつりあつりあつりあつりあつり

うの人あつりあつりあつりあつり

あ氏
惟方

あつりあつりあつりあつりあつり

後成

右ニミ千載集えりあつりあつりあつり

あつりあつりあつりあつりあつり

あつりあつりあつりあつりあつり

あつりあつりあつりあつりあつり

後成
あ氏

右管領市保りあつりあつりあつりあつり

あつりあつりあつりあつりあつり

あつりあつりあつりあつりあつり

美法百

尋ゆるは信ふまにあらぬありて
かぬよりしるしをたれにまきしる書て
まはれをよめるやとてん
わす浦よもせうも波のわきを
まはりかきけりあまやわをわす
こよふよよまのわをたけのまは
こさうもあまをたけのまき
いふよままのわをたけのまき
あまのまをわのまき
たてにほにほたけ改正下まほに叙
ゆりゆり時候といつたけり結答

寛政元年
八内屏風

比叟

古五

吹上

春の浦や入江のありたおれ乃けり

かろいりうはあつんやわし

わす乃浦よまきとていりけり

いよんまみり世よいりて

濱小野 真砂山

寛平菊命名取才八番

秋風のやよはあそりしるまき

花うあそぬら波のよまらり

とあられおと浪よふまはあそ

吹よのうまは袖ぬまきん

月さすむ誰かうにまきのまき

初五

初六

文永七年八月十
五日東之首

行幸于熊野
時

十五節

吹上のらりりゆいさむせたりきなり
板橋
 紀の海乃まゆみあけや風の
衣笠内大臣
 さやあひるい人いりあそ
若御内大臣
 塩風のひさよふらを海らさ
 あつてもあつたに波のよきら
山本入彦
 之波の花りあふぬりう風
大政大臣
 吹上りさめり林の木の月
白河院
 おき川を吹上のらりあや
 ぬらりりさき波うたなくあり
美忠
 紀の國やあまのあそわらさるる
 吹上のらりりあまなりきなり

瀨

板橋九

坂百

日 初六

初七

初九

さむらひにきり吹上の海を人かき
懐田法師
 さふらりりさき波うたなくあり
永保
 冬の来をうらりりあそわら
紀伊
 浦風は吹上のまほなりさきなり
板橋
 波うらりりさき波うたなくあり
板橋
 うらりりり吹上のまほなりさきなり
板橋
 吹上のまほなりさき波うたなくあり
板橋

乃物九

波よちり吹との浪れをうせよ
時よもさうぬきうつとけり 歌を

建保百

春月のる風吹との乃を海より
つらうき浪のたはなくけり 飛宗

日

浦さこよふ吹との浪乃あみまを
足やこのまをきりえまうは

日

夕よみ吹とのを海乃これし
そよよたふいくおきけ陸風 唯酒原

月

わの海も吹よき花の浪をせも
あみこむかとの吹とのを海 定家

まのうらりかきこれ波の花れよ

三ノ

日裏根合

いとよぬ風のゆきあきの浪 日

簾貝

浪の海吹との乃浪のまをれい

筑後六

風りうまをきつとさうらん 西の

おきま

まをりていよわらん 紀の西也

日

吹とのもまれば花のあれれ

指山納言 定家

たはまをのちる輝乃よのれ

日十三

よよよふ吹との瀧乃しをせよ

ちのくまぬ乃さけてうらふ 定家

日十九

板代乃みさく波をうてをせよ

かきとせやらぬ吹乃を海 僧正 定家

新五

久里井中舟をくけて物さつり勢

目五

吹上り乃を後八月うるけし

江戸宿信

目二

衣下りはさの若乃きよらり

かきあてわさる吹上り乃え海

具親

小野

坊有

濱風の吹上り小野のあきら原

淡茅本

波もあきらに玉おしらりきり

回信

古来予命

紀の國や吹上りのとせくあきらり

在島

あいくおあまきゆら松風

赤月大基

目五

秋風の吹上り小野のあきらり

葛

さきうらうらおて落るあきら

光後

真砂山

秋風の吹上り乃を後八月うるけし

外より見せり月の影は

あ家

真熊野篇

又云三山

伊勢國同幸平

万六

島隱吾携来者之表傍邊上

真熊野之船

右邊幸有島村山部宿祿赤人作也

今多々幸有島村山部宿祿赤人作也

念八

ここの所の船乃りまけくまつり

あきうらうらおて落るあきら

後人表

新五

あきうらうらおて落るあきら

初七

初十

ここの夜やあさむしかなん あさむし

右一宵無明のあつらふつらふ

あよむとあつらふつらふの

ふらふのあつらふつらふの あつらふ

あつらふつらふつらふの

あつらふつらふつらふの あつらふ

あつらふつらふつらふの

あつらふつらふつらふの あつらふ

あつらふつらふつらふの あつらふ

あつらふつらふつらふの

あつらふつらふつらふの

万代

三熊野のこれえ乃山此遊つをり

あつらふつらふつらふの あつらふ

あつらふつらふつらふの

あつらふつらふつらふの あつらふ

あつらふつらふつらふの

あつらふつらふつらふの あつらふ

あつらふつらふつらふの

あつらふつらふつらふの あつらふ

三

河

新古九

くまのほろなまをのみるねん
さくらんされぬ流のやうら

反古九

新古七

熊野河せうりよわをね母の

反古七

へりな神のおまをたうか

わきわかたなまきりし友を

家流

こく南のくまをてうりう

浦

万四拾

こ熊野の浦乃を海ゆよりへか

こりいせりよまのあまい人

こくまの海の流ゆよりくまね

日

拾十

我のう人をせりいしん

あまのう人のこりをんを

平多盛

うのまよゆりいんかん

まのれなわきりよまをの

道全法師

あしれを海ゆよりみかむ心

いんりはしん人をこくまの

和泉寺

あまのうまをりうかん

こ熊野の浦乃を海ゆより

我をいしりよまをてりん

伊勢

こくまの海ゆのね乃たむを

うたけけいぬ浪のうりゆ

七条院

大納言

多向草

新古九

新古七

新古五

新古三

新古一

新古

新古

新古

新古

新古

溪のつれ見を山のまもみし 西園寺入

削みく海のまもみゆふもてけしき

けしきをまもみよつよけしき 後北

こころの海ゆふれなからけしき

いふくをまもみしけしき 日

宮

ちをわうく海野のまもみしけしき

かきぬふ代のまもみしけしき 定家

陽

こころのゆふれ丸のまもみしけしき

いふくをまもみしけしき 後北

耶智

山付能 三重縣 彦根

やうらなれ海つをうまみし

あつさ水海つをうまみし 家隆

山

ちをわうく海野のまもみしけしき

いふくをまもみしけしき 後北

こころの海ゆふれなからけしき

いふくをまもみしけしき 日

ちをわうく海野のまもみしけしき

いふくをまもみしけしき 後北

こころの海ゆふれなからけしき

おん修心 道論

みづれをききさかたに水のたもと
三重滝

かたつらと水の花とありて
こころをめぐらさるる水の流

高嶺

そのよきまきりる流を足はら
かたつらと水の花とありて

右那音の二乃流へつらつて花山は
西居を乃老まはるとてまみま
とらとせぬまんまはらひわく
かたつらと

中流かたつらと水の花とありて
かたつらと水の花とありて
雲をくたつらと水の花とありて
花をくたつらと水の花とありて

神倉山

とほ水のゆくら山乃りた
のゆくらもももはらのゆ

雄山

いふやとつらと水の花とありて
うらとつらと水の花とありて

青森

山川流里
青森の山をめぐらさるる
こころをめぐらさるる

六帖

よき舟のよれきふりしれぬ
あまの海もれも昔ふりあり

何

拾七

六帖君ふを人ふねるはのよれきふりしれぬ
よき舟のよれきふりしれぬ

いづれ舟も人ふねるは

合五

卯辰とて舟も人ふねるは

舟も人ふねるは

拾七

わらわのよれきふりしれぬ

よき舟のよれきふりしれぬ

拾七

よき舟のよれきふりしれぬ

よき舟のよれきふりしれぬ

拾三

よき舟のよれきふりしれぬ

拾七

よき舟のよれきふりしれぬ

流

拾七

よき舟のよれきふりしれぬ

拾七

よき舟のよれきふりしれぬ

拾七

よき舟のよれきふりしれぬ

巻五

昔は此のうらむ心は
あつたやうにせむらわら

あつたやうにせむらわら

あつたやうにせむらわら

里

拾五

あつたやうにせむらわら

巻六

あつたやうにせむらわら

あつたやうにせむらわら

岩田河

巻六

あつたやうにせむらわら

あつたやうにせむらわら

六

あつたやうにせむらわら

六

あつたやうにせむらわら

あつたやうにせむらわら

あつたやうにせむらわら

あつたやうにせむらわら

あつたやうにせむらわら

序

松の影のうつらうつらと夕すべ

あふあふとあふかゆるさ あり

石の底に空へさくらさくらとさくらと

さくらとさくらとさくらとさくらとさくらと

あけのよはけうらうらとさくらと

發心門

千九

うわくと節のちりさりとさくらと

ゆきあふれ月うらうらとさくらと

松平細言
後序

雜篇

妹山

万七

花の影のうつらうつらと夕すべ

背山

万二

あけのよはけうらうらとさくらと

ゆきあふれ月うらうらとさくらと

万七

あけのよはけうらうらとさくらと

ゆきあふれ月うらうらとさくらと

万

あけのよはけうらうらとさくらと

ゆきあふれ月うらうらとさくらと

万九

紅葉

あけのよはけうらうらとさくらと

ゆきあふれ月うらうらとさくらと

万十三 鞭珠

あけのよはけうらうらとさくらと

日十三 藤原

ありんたりのて妹の心おれんて

ト累 *あはれ*

日十四

榜願中乃の心をくわむ妹の心を

けおれんをいひあはれん

日十五

右一と丹は真人三麻呂仕代行同起

勢能山時化歌

日十六

あまのまはれ之奈布勢能山とあはれん

わらわしゆきい本のまをいひあはれん

フタノツカラカ 右小田事 勢能山歌 今安云 此奇

或奇枕之奈布勢能山ト別名云々

妹与背山

万七

ヒトオラハ 人在者母之最愛子也 麻毛吉

キノカハ 本川邊之妹与背之山

わらわしゆきい本のまをいひあはれん

あはれんをいひあはれん

妹背山

大穴通 或云兩山合名也

日八

あはれんをいひあはれん

あはれんをいひあはれん

あはれんをいひあはれん

あはれんをいひあはれん

あはれんをいひあはれん

あはれんをいひあはれん

後人

後七

君と我らと世のふも枝とれん
多きも少きも物とらありけり
後入宗

日十五

しるしをては世のふも枝とれん
多きも少きも物とらありけり
後入宗

拾十七

しるしをては世のふも枝とれん
多きも少きも物とらありけり
後入宗

全三

しるしをては世のふも枝とれん
多きも少きも物とらありけり
後入宗

新勅九

しるしをては世のふも枝とれん
多きも少きも物とらありけり
後入宗

後十三

しるしをては世のふも枝とれん
多きも少きも物とらありけり
後入宗

後十五

しるしをては世のふも枝とれん
多きも少きも物とらありけり
後入宗

日六

しるしをては世のふも枝とれん
多きも少きも物とらありけり
後入宗

後十五

しるしをては世のふも枝とれん
多きも少きも物とらありけり
後入宗

日六

しるしをては世のふも枝とれん
多きも少きも物とらありけり
後入宗

しるしをては世のふも枝とれん
多きも少きも物とらありけり
後入宗

信實

妹背ふしりふみかたやいぬく

うしの川をよれとてあま

右二ついふうまのまゝとていひ

てゆかり贈答

ありとてわれとていひ

山田の澤のぬいぬかり

とらに池の花もさくくいふ山

りともいのりをさしたる

あふそよよせのふらさる

いふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふ

冬次峰守

朝卜女

行徳

伊能

陸松

名二つ

いもせの山乃中川のぬ

行家

妹背山中たりらぬうま

うけて替りぬぬぬぬ

坂守後十首
うまのうま
重信
河

是場河のうまを藤乃み

我々うまのうま

か乃らん測せよとてい

おやうらぬいぬかり

いもせ河のうま

人のうまをいぬかり

右一首は冬次峰守の道徳母世とて

讀右二

讀右二

河

柱中のま
公雄

讀右二

冬次峰守

尚侍右京
満子朝卜

乞巨勢山

吾勢子乎乞許世山乞人者難云
多七セコヲコチコセキトモトハナト
キ三モキ一廿五ヤニノナニエラシ

君も不事名益山乞名志用

片うさとくしんりさ山のりくさ
きさる海の中のね乃枝まよ
後六

河

六帖

とく入り地をせ川よさぬ
多しつるたみしつうめをん

名草濱山

江それいころたなくれをぬりしり

いさはしあううきもりたれ

後十
後人不知

日七

此のあれたくこの瀧まきみるれわ

しものりふいあちとさつる日

十音

あふもあうしりくされ流すしり

千鳥
有家

新五

あふのりい海めとまみかゆんつ

海松
信成

六帖

あふされあふあふあふいあ

あふされあふあふあふいあ

あふのりあふあふあふいあ

あふのりあふあふあふいあ

あふのりあふあふあふいあ

山 流とるしものあはれなる

百七 名草のよきあはれなる

ちのよきあはれなる

あはれなる

あはれなる

去来見山 或云伊勢

百一 ちのよきあはれなる

あはれなる

百六 ちのよきあはれなる

あはれなる

和名四谷

大葉山

百七 大葉山のあはれなる

あはれなる

人園山

百 人園山のあはれなる

あはれなる

百 ちのよきあはれなる

あはれなる

杖津野

浦

大和国吉野篇入と哥意勸手板

常木人回山乃杖津野乃垣津情

夢見鴨

浦

里

しりぬ 林津の浦よきかきて
ゆりかへともくはつてゆく

世業

見せしむらひの山をくま
林津の甲のまきあひまきり

殺目山

一見か

百十二

きりぬ山ゆりかへあきり
はのよきかきりてあきり

系鹿山

百七

あきりぬ山ゆりかへあきり
ちりぬともあきりぬりかき

令一 嘆子鳥

いとう山ゆりかへあきり

おせ屋
九法

若衣

いふろかきりぬりかきり
ぬりぬ系鹿の山のあきり

隆社

時衣

系鹿山ゆりかへあきり
いふろかきりぬりかきり

西坊

甲

六月ぬいとの甲ゆりかきり

良玉

だんぬいとの甲ゆりかきり

海仲心

小倉山 或緒捨

万七

アタヘユクラス テノ 芝ノニキノハモ
安太郎部 山はゆりかへあきり
久不見者 藤生 赤家

鏡花丸

うつつらとすてのふれきたのまを

あししくんひの昔めいより

鏡花丸

あししくんひの昔めいより

あししくんひの昔めいより

鏡花丸

あししくんひの昔めいより

あししくんひの昔めいより

あししくんひの昔めいより

あししくんひの昔めいより

信土山

大和有月名子御見干枝尾仍并男

万丸

あししくんひの昔めいより

あししくんひの昔めいより

高野山

事

千丸

あししくんひの昔めいより

あししくんひの昔めいより

鏡花丸

あししくんひの昔めいより

あししくんひの昔めいより

あししくんひの昔めいより

あししくんひの昔めいより

鏡花丸

あししくんひの昔めいより

あししくんひの昔めいより

あししくんひの昔めいより

あししくんひの昔めいより

後百十六

山の明神とて着よふお給りなるとも

とくれわを地いおしうけりけり

ふゆの山乃きよのみのゆき

後成

右岸福の屋くれ給て後野山に

さめなむのけりけり

後拾八

いんりうの節のむれしとらん

ふわいこやれとらん

中野

同五

とれんぬのそふおのしと

ふゆの雪乃中うかきぬ

仕助は親

同

高野山あらしとまら侍の表七

ついでのおよしとかりぬん

山田

新松士

まも又ちきりあらしとわき野山

うりあらしをまら侍

貞室上人

寺は親

まも又ちきりあらしとわき野山

あまん何れぬはまら侍

後成

弘安元年

まも又ちきりあらしとわき野山

ふゆの山乃あらしとまら侍

社物親

まも又ちきりあらしとわき野山

あまん何れぬはまら侍

後

右岸蓮入屋よれゆりけり高野山

まも又ちきりあらしとわき野山

高野山あらしとまら侍

あり

ゆらぐら行き 杖の杖は月 西の
まねくまみやうつらんきい人の
ふ節のおくれおのれ

後所

二此ふ節の奥院へまのたよ西の
河の水よよままのちやあなれけ流
を流まよさゆとまゆてまゆとま
清の着いあまおとまげと高野山
る辰ちらつゆあつさのえ

中野
親

幸

今よりいふ節のこひれ月を足く
あつさぬのりおちまらぬ

具記

後所

今城峯

付丹山

万九

イモラ カリ 一ノミマ ナミタ
妹等許 今本の願成立 婦待本者
ルヒト ミケ
古人見 祈年

後所

今城峯 丹山のえねのやま
あつさぬのりおちまらぬ

安明天皇

右一と建皇子これ今城谷よおさめ
ゆらぐらと流さぬてよませおちまらぬ
誰とはしあいのまねらひとまて
洗まねのまねらひとまて

思

先達斎杖まおちまらぬ
右派のちまらぬ

万十

いさよこの島にありて三浦也 渡人表
此の島に今此の島にほつてさる

人はずきとて御妻守はる
石代 三浦四合

石代

野 濱岸 瓦上 虫 杜 神

万二

後うしと君うしと今方いつと路の

小ねうと持を又尺まんりも 人丸

拾二

何きんまじとひうめきんうられ

夫のいひきと物とあらしく 渡人

同九

我とほんもいつとろのむとひね

子とせとやと持うとくへさ 好志

今に今此はもさるれしとらねうとらと君ハ

目一

まもとけきわわんせとん 中御書

かくとたまたふりりりしとね

しと月れとわらうるか 保原

三石

かめくむしとあらうらん君いよ

あつれとまもつとろのね 草高

新助十二

うとねとねいりて路のむすい雲 野

とけぬものゆ人もとくしれ 野

法九

うとねと又あつとけらとまも

しとねとをねと石代のね 草高

法七

石代のまのむとかなと親とん

かめとつとねとよしとららん 草高

初六

終拾六

終拾六

終拾六

終拾六

野

二二

イハレロノノ ナカニ タテル ムスロミツ コロモトケス
磐代乃野中爾之有結在情毛不解
右所念

石代の神乃志いまあそ風り

むらりれらおひのいふ

和歌

松生

同

いそいそ海の野中さしり春をせよ
むらりれらおひのいふ

定歌

初七

わらわの神乃志いまあそ風り
むらりれらおひのいふ

陸博

初七

石代の神乃志いまあそ風り
むらりれらおひのいふ

六代大相國彦

石代の神乃志いまあそ風り
むらりれらおひのいふ

法正

建保三年

石代の神乃志いまあそ風り
むらりれらおひのいふ

推延

石代の神乃志いまあそ風り
むらりれらおひのいふ

孫のゆくさひをすて 龍宗

濱

万二

盤白乃濱松之枝乎引結真幸有者

亦還見武

石有間皇子自傷結松枝歌

岸

月

いとちのまはれけり枝しむいん

人いさくくもいんきんりも

右長忌守意吉磨見結松枝咽奇

二首内

尾上

五拾六

たのふらのおのへ乃風よそこれと

ねのまはれけり枝しむいん

世同いつれりやあはれいさくく

中よまたくらねとらるま

思

君さ歯母わん代んをれを嫁氏の

畠の草根よいさくくいん

りあはれいさくくねとらるま

をりれわねよねしむいん

いとちのまはれけり枝しむいん

夏ハミヤコよかきくくく行修

杜

拾四

はく竹のりくぬれおろいり海の
忽り草んせよよじとわぬん
基良

念八

名しらの森れいりもねり
志けくよわくもばいん
真孝
は師

神

拾九

いけりれれゆらん
たのせうとせれ美のゆき
源親房
後人不知

藤代伊坂

三ノ四

万九

統享

藤白之三坂乎越跡自携之
フチニロノミウカヲニユトニロクノ

我衣手者所沾書裳
ソクニロモテハヌレニケルカモ

讀人不知

後五九

花代乃花物をうそて
かきうとやうぬ吹上の花梅

後行書

ゆりさりのみさりの松乃本
ゆりさりのみさりの松乃本

後大納言
公彦

鹿目鹿

雜賀ノ野浦

万六

やまきりるわく人君のこころやどつらん
きるた日鹿野よそくひまきりあきら

下畧全篇載于玉律

赤人

浦

本國ノ狭目麻乃浦爾本見者

海人ノ燈火浪向從所見

紀の全れさひの浦乃あきつる

妻の目くらしくはくあき人

大我野

山跡庭圃往秋大我野之

安布野

作葉有敷序有有跡者

わくれりー君よあふ野とさひせ

紀用

我せにうわとあまのめさひゆら

さのせにりうわいとめんり

右神皇元年冬十月幸紀伊國之時

為贈長等人所詠娘子呈朝臣金村

他焉

あきりい紀の國守うたのり

ゆるた時さくまのしあるさみ

本河

朝のよひさのありては見え

ゆねのさけし宮少りまなり

人かしくあわのさひを朝り

紀の海つれはよもせのふ

潮ゆきよ本の川ゆきりゆ水の

いはちむじむやうなるむじむやう

本阿つとあーあつらのうれ白さう海

紀の川ゆきもちうのぬりきり

後教

まへけそ本の海きりくまのあり

ふらのあくよむやうらうし

本海

紀の海乃屋とあつめてしよのし

いりりうらうらうらうらう

紀の海のはらうらうあけつれ

まやあつて人いりきれ

老善阿志

本の海は朔月あつてのむきけ

とくねんゆらうきりきり

いはちむあつと海きり補つて

この海きりこのりぬふ

黒牛海

黒牛乃海くれちりあふりしきれ

あつてあつてあつてあつて

酒

黒牛方臨干の浦とられちりの

むしむせのちりうらうらう

石家丹姑等吾見黒玉
石家丹姑等吾見黒玉
 久漏牛方平見佐府下

阿胡根浦

百一

吾能之世修し三ヶ川石少さ
吾能之世修し三ヶ川石少さ

右中自命往于純淨温泉之時以

三首之月又云捨山上憶良大史類

聚教林白天皇也明淨寂寂云々

うささけはさひもたけり志さゆや

あこねのうさけ海くもり

嗚呼見浦

此浦就万葉集点入處に訛或行跡純淨
 淨幸之事亦不一途可詳審而巳

石

嗚呼見の浦よ水のりそそきあ

まものまらにふかひらり人凡

右津紀伊國之時而京外類云々

方圖

百一

伊ささのそまゆもをみまじひ
 わりあはさるひらりよまや

湊

月七

圖方乃みまをれきまゆ時をせ
 けまぶいたそへはらりも

飽浦

月

網川まらあまらわらんあさの浦の

飽等濱

三ノ浦ありゆき足よし我の人も

万七

あの國おのころの海乃をぬれ

しれりかきとすこしあはれ

横田

年魚市浮

月三

ゆき思ふ心もわらあゆら

三鶴

まじりよきしつるまじり

高市使

祝六

山月のまゆみりむゆくの

苗代水

まじりゆきをたよせしつ

元の寺寺
入

知多浦

万七

年魚市方志りのまじりしつるの浦

アユノキサ

万代

あはれ心もあはれしつる

あゆらるる心もあはれしつる

あはれけのまじりしつる

元の寺寺

妹鴻

付取見浦

百七

藤よりあはれしつる

この足乃の浦よしつる

ゆきしつるのまじりしつる

新物六

ゆきしつるのまじりしつる

元の寺寺

月八

ゆきしつるのまじりしつる

ゆきしつるのまじりしつる

元の寺寺

後百七

ゆきしつるのまじりしつる

廿月

あつたの浦よりうのりて
おとけの浦よりうのりて

廿日

あつたの浦よりうのりて
おとけの浦よりうのりて

廿日

形見浦

あつたの浦よりうのりて
おとけの浦よりうのりて

廿日

あつたの浦よりうのりて
おとけの浦よりうのりて

廿日

あつたの浦よりうのりて
おとけの浦よりうのりて

中野之親之
家弁太

陰持

十号
廿日

玉浦

あつたの浦よりうのりて
おとけの浦よりうのりて

あつたの浦よりうのりて
おとけの浦よりうのりて

あつたの浦よりうのりて
おとけの浦よりうのりて

あつたの浦よりうのりて
おとけの浦よりうのりて

廿九

あつたの浦よりうのりて
おとけの浦よりうのりて

廿五

あつたの浦よりうのりて
おとけの浦よりうのりて

月

あつたの浦よりうのりて
おとけの浦よりうのりて

千五万

五

離小嶋

百七

あゝ磯も浦もさうなるもの海は

なまれゆき乃後うーしゆり

さうあひて月ひきさしこれ浦の

さしきう海よりさうさうくや

あせと今さうかたうささの浦乃

たまし小治の木のよれ月

忠家

百代

中書

百九

三名部浦

甘鹿嶋

括津田

さう人の浦温さうらさのササ

釣さうあまはさうさうりえん

浦人の海はさしき紀の海は

みち人のさうさうれつむん

宗信

名高浦

百七

しき紀のさうれ浦のさういしよ

神のさおて秘さうさうりえん

しきこれさうさうの浦乃さうりえの

しきよなさんしきさうさうりえの

紀の海乃さうさう浦乃さうりえの

百
名告藤

百十一

万十一
藤原

ととあつしつとあつあつにあつは
しつたのあつた浦のあつたもの
こつらつとあつらつらつとあつ
あつたの月あつたの浦あつたの上
あつたあつたあつたあつたあつた

磯浦

万九

つうの浦あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
今城真人

万七

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

万六

あつたあつたあつたあつたあつた

水竹津浦

今葉水竹津浦名取んあつた

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

同白あつたあつた
あつた

白神磯浦

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

神崎磯浦

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

りうまの浦よぬるそとよれ

ゆあけてはしむるさしづの

はまの浦よりみりたぐし

井し。や後名の浦よあまれ

ゆすむはさるきとうこつ

わあけらぬうじきよ乃井ま

後名の浦れうりやのま

野のちろ後名の浦乃うら

たりぬけをうきてはせん

らうまの浦まの海乃まは

あうてもめうのの袖る

千五百

千五

建保

同

同

同

しんせしよとせしよよの浦より波の

小江浦

記六

此の浦もゆらぎの浦にたぬ子鳥

ゆらぎとてしよとせしよよの浦

塙浦

記六

紀の海やうららの浦の具津もよ

まのらとてしよとせしよよの浦

記六

りまれとてしよとせしよよの浦

あゝとてしよとせしよよの浦

塩屋浦

千五

おき浦を塩やの浦とあつた

のかりとてしよとせしよよの浦

千九

ちあやとてしよとせしよよの浦

右白河は浦に塩やをぬりし

まゝとてしよとせしよよの浦

うらみゆらぎとてしよとせしよよの浦

左の浦は塩屋のまゝとせしよよの浦

かゝとてしよとせしよよの浦

右同様

里

しつこく 垣根の里よきむあま
我よりまきものやみり
中絶
歌

風莫濱

万九

かきれきの濱乃きけりうら
こふりあつるる人きり

手繩濱

こぼつりたるありせむきり

あつるのさぬれりきり

倉奈志濱

或言枕入豊島

拾七

わらひまりあもわくしてうら

りわてゆきんらりりりの濱

鳴那濱

懐半

かきまきすなをいり人のきり
おとろかりやのさぬれり

千伊濱

伊勢田有月名

拾七

よらけ代とわうらん地は此の必れ

ちらんゆの濱乃らゆかりり

右に作るあえおされさきけり

これりりてきりりりりりりりり

五十等見鴻

或曰伊良農鴻也云云此者伊勢原也百葉

万二

潮た乃二五十等見乃島邊

妹業良六席荒鴻回字

浦初鴻

一弄傍津田也八雲中好月く初寄志載は
回了但去あつて之類 尚田重載

歌

今も又こふれいらく〜

〜

白崎

〜

〜

湯羅

時 隣 門

妹さめ玉ばらうらうら〜

湯等のと流よ山か〜

月九

ゆらぬのさださあひ〜

〜

白

あさやけのひこ〜

〜

遠傳方

ゆらぬのさださあひ〜

たまたぬ袖のまれあ〜

行意

月

花をれ白ひ〜

刺

ゆらぬのさださあひ〜

定家

日

秋あけのまれま〜

ゆらぬのさださあひ〜

順徳院

痛さう〜

〜

後徳太子
たまた

鉄石

死のあやゆらぬ〜

あまをくはあまのしづか

はるかにあまのしづか

あまのしづかあまのしづか

あまのしづかあまのしづか

あまのしづかあまのしづか

湊

新古上

あまのしづかあまのしづか

あまのしづかあまのしづか

あまのしづかあまのしづか

あまのしづかあまのしづか

後七

あまのしづかあまのしづか

あまのしづかあまのしづか

あまのしづかあまのしづか

あまのしづかあまのしづか

あまのしづかあまのしづか

あまのしづかあまのしづか

あまのしづかあまのしづか

あまのしづかあまのしづか

あまのしづかあまのしづか

あまのしづかあまのしづか

あまのしづかあまのしづか

後七

後拾五

月九

建保

内容不合

玉手

ゆふさうに風は浪よりなる新の
ゆふのみやふ袖うのくま 後成

上野麻

是如所親

新五十二

ゆふさうにゆふのそねをこくぬ乃

小侍長

まのちもあつぬよりこころ

こころのあつぬよまよふとあつれり

中務親

八長百

浦波のたより風やなつぬん

ゆふ乃みさきとわらぬ人 乃成

口

新五十二

ゆふのそねはわらぬ人らとこ

ゆふのそねはわらぬ人のゆふ 乃成

新五

ゆふのそねはわらぬ人のゆふ 乃成

ゆふのそねはわらぬ人のゆふ 乃成

ゆふのそねはわらぬ人のゆふ 乃成

ゆふのそねはわらぬ人のゆふ 乃成

新五

ゆふのそねはわらぬ人のゆふ 乃成

ゆふのそねはわらぬ人のゆふ 乃成

ゆふのそねはわらぬ人のゆふ 乃成

ゆふのそねはわらぬ人のゆふ 乃成

ゆふのそねはわらぬ人のゆふ 乃成

室江

百十三

ゆりのきりきりまのしれ人
中良のや波ちれきりきりきり
ありの乃月よりわたりふ人

キノクニノコロノラニハニニ
能伊國之室江邊亦千年雨毛障事
ナクヨロツヨニカクシテラニ
多萬世亦如是將有登大舟乃思時而
イラダナニキキナキサニ
出立く清瀨爾朝名寸二未依源海松
ユラナキニキヨルナハ
夕雅伎亦未依繩法深海委之深月思
コラララナノリノ
子等遠繩法之引者絶登夜寂度人
ノキニシトクニオラコナ
之の之長尔鳴兒成行取左具利持
コスエフリオコニノキハ
予腹振起志之波好美二手挾雜兼人數

悔遠思者

哭澤社

万二

哭澤之神社爾三輪須惠雖禱祈
我王者高日所知奴
人磨

右高市皇子尊城上殯官之時也

三穗石室

日三

皮為耐守之米能善子我伊座家苗
三穗乃石室者雖見不飽鴨

そさつりりやハ今もさつれ也

きみたる人をつねましつけり

右室戸上たたらたの木のまをさつれ

ひりの人うあひうらうと

右三首博通法師往紀伊國見

三徳石室作歌

紀の國わさかの岩屋もたけうら

凡よりうらさおよこさうら

浄越る非

幸

雲のわらぬうら非あうんりも

うらうらうらうらうらうら

信教

八上王子 付三隅山

笑對 待さつるやうらのさうらうらうら

あしくせらまれまもの山風

雲の

左三首野々詣りなる八上の王子れ
梅と見るとさうらうらうら

曝井

從世以下西行紀中出々大華在之仍列々

三粟の甲爾向有曝井と不絶將通

彼所尔専毛我

いり井此本のたうけまのめれハ

衣子さうらうらうらうら

信教

今よりる井のいそつてさうらうら

うらうらうらうらうらうら

不絶將通

古畑

うらうらうらうらうらうら

深山

まじふふふふのまじりてみよ
右大峰より大木畑ちかくなりて左畑
とりよあまを畑のまじりて
よりのとこ

姨峯

少き山すみけ月と見たり
まじりてみよ
右大峰のまじりてみよ
まじりてみよ
月まじりてみよ

東屋峯

右大峰にまじりてみよ
神や月時ぬらぬありあつちの
まじりてみよ
右大峰にまじりてみよ

千草嶽

わさてけまのまじりてみよ
まじりてみよ
右千草のまじりてみよ
まじりてみよ

蟻戸渡

さゆ久しきつこをこひを物まら
なふまにうらふありのさわり日

右大書にゆくまの

屏風歌 付行者還 見留

屏風の中をさゆをさゆをさゆを

十年 右月書にゆくまのさゆを

東山書
大書にゆくまのさゆを

廿三上終

